

京都

KYOTO

不思議ふしぎ?!

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所

都の珍梅、梅伝説

新しい年も明け、はや梅の便りも聞かれ始める頃となりました。今回は京都にまつわる梅のさまざまをご紹介します。

梅といえば天神さんの梅花祭がおなじみですが、

この祭はもともとは菜種でした。道真の命日は旧暦二月二十五日で梅の盛りは過ぎており、怨霊となった道真を「なだめる」意で菜種をお供えしたのが始まり。ただし神となった道真

が梅を愛したことは事実で、「神は此木ごとの花の主かな」と詠まれています。「木ごと」は「木毎」、つまり「梅」を指します。単純な文字遊びですが優雅です。

京都御所紫宸殿の左近の桜もとは梅。梅を愛した嵯峨天皇ゆかりの大覚寺ではいまま左近の梅のままです。紀貫之の娘・紀内侍ゆかりの鶯宿梅、和泉式部ゆかりの軒端の梅など歴史ある名梅には事欠きませんが、

珍しいといえれば新京極・長仙院の未開紅でしょう。この梅、蕾の時は紅色で花が開くと真っ白になるという珍品。都人はこぞってこの蕾を愛でたと言います。

岡崎の東本願寺別院には八房の梅があります。一つの花からなんと八個の梅が採れるという代物。効率がいいとはこのことです。下御霊神社の萼緑梅は白梅の萼が鮮やかな緑色をしており色の対照がきれいです。

花でなくとも右京区山内の山王神社にある夫婦岩は、岩のくぼみに梅干を埋めると子宝に恵まれる、あるいは初宮参りの時、梅干しで鼻をつまむと長生きするなどと伝わります。

梅は「埋め」と「産め」の両方に通じ、死と誕生を合わせ持つ神秘的な花です。この春は馥郁とした香りとともに梅の持つ神性、力も是非お楽しみください。

(京都学園大学非常勤講師 堤勇二)



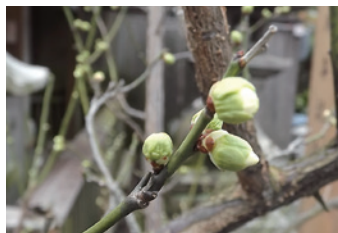
長仙院・未開紅 蕾は赤だが……



東本願寺岡崎別院・八房の梅



八房の梅の実



下御霊神社・萼緑梅 鮮やかな緑色がきれい



山王神社・夫婦岩 左の女岩のくぼみに納める



夫婦岩 納められた梅干 上からお神酒を注ぐ